

# 社会福祉協議会会長賞

堺市立 長尾中学校 三年

芝 小桃

## 平和で安全なまちのために

私の街は平和です。特に物騒な事件もなく、安心して穏やかな日々をおくれています。そんな平和で安全な街を維持し、犯罪や非行をなくしていくためには、次の三つのことが大切だと思います。

一つ目は、人々が犯罪を犯してしまわないように、周りとお互いに支えあうことです。

盗みをしてしまう人の中には、生活に困っている人がいます。

最悪の手段である犯罪に手を染めてしまわないために、困った時は周りの人に助けをもらい、周りが困っていれば助けるという「支えあい」が大切だと思います。また、公的機関の補助の種類や程度を多様化して、うけやすいようにすることも必要だと考えます。犯罪の起きにくい社会をつくるためには、人々が犯罪を起す必要のない社会を心がけるべきです。

二つ目は、犯罪はどのようなものも絶対に許されないことだということを全ての人がしっかりと認識することです。理屈で分かっているのではなく、実感をもつことが大切だと思います。最近、

飲食店などでの迷惑行為のニュースを目にすることが増えました。彼らは軽い気持ちで行ってしまったようですが、これは他人に多大な迷惑がかかります。私は、万引きなどの軽犯罪を犯してしまふ人には、こういった人が多いのではないかと思います。どんなに軽い気持ちで考えていても犯罪にはかわりないということ、人が不利益を被るということを、心の底から理解することが、犯罪を防ぐためには必要です。そのために、私は大人も子供も全ての人が「犯罪・非行」について、表面的ではなく、深く考えてみる機会をつくる必要があります。実際、私もこの作文を書くことになるまでは、犯罪や非行について深く考えることはありませんでした。犯罪について自ら知ろうとし、考えることで、漠然とした「犯罪＝悪い事」というイメージ以上の認識を得ることができたと思います。社会で起きている犯罪を重く受けとめて、認識を深める、そして広げることが大切だと思います。

三つ目は、想像力と共感を養うことです。自分の犯罪によって苦しむ人がいると想像でき、それが自分だったらどうだろうと

共感することができれば、犯罪をすることを考えたときの心のブレーキになるはずです。

また、犯罪や非行を犯してしまった人の更生のためには、さらに二つのことが必要だと思えます。

まずは、本人たちが自分の何がいけなかったのか、自分はなぜ罰せられるかを自覚することが大切だと思います。私は幼いころ、よく弟とケンカをしては親にしかられていました。「お前が悪い。」としかられても、当時「弟が先にやったことだ。」などと思つて納得できずにはばらく反抗したのですが、よくよく説教を聞いて、どういふところがどうして悪かったのかを飲みこめると、素直に反省することができました。この経験から、犯罪・非行をしてしまった人が更生するためには、自分が悪かったと自分から納得できることが大切だと思います。

次に、犯罪・非行をしてしまった人が反省することができた後は、周囲が受け入れるということが大切だと思います。本人に再犯の意志がなくても、社会復帰する先に居場所がなければ、非行グループに戻ってしまうかもしれせん。周囲が受け入れることの一環として、その後まっとうな生活を送るために支えてあげることも大切です。

明るい社会をつくるために、私は前述した犯罪を防ぐための三つのことと、更生するための二つのことが大切だと考えましたが、

最も大切なことは思いやりだと感じました。犯罪をしてしまいそうな人は被害を被る人を思いやれば踏みとどまれます。更生をするときは周囲が思いやりをもって接すれば立ち直れるはずで、犯罪のない社会とは、思いやりにあふれた社会であると、私は思っています。

